

○こむ1会運営委員会 ボランティアセンターからの報告・連絡事項

1. 連絡事項

(1) ボランティア活動センター LINE 公式アカウント始めました。

ボラセンから行事、講座、ボランティア募集等の情報を発信していく媒体として活用していきます。皆さん登録してください。

(2) オンラインレクリエーションについて

11月15日(月)より毎月15日にZOOMを使い、市内の施設へレクリエーションの配信を行います。

同時に出演を募集しています。出演料・交通費等の支給はありません。

・2時間枠を複数のグループでシェアしていただいても大丈夫です。

・「30分だけ」の出演でもOKです。

出演ご希望の方・グループはボランティア活動センターまで。

(3) 全国校区・小地域福祉活動サミット in 北海道

～ イランカラプテ からで しょう ～

北海道で開催される校区サミットに宝塚にいながら参加できます。

10月22日(金) 13:30～16:30

23日(土) 13:30～15:00

会 場 ふらざこむ1 2階 21・23・24

参加費 300円(資料代)

※詳細・申し込みはチラシをご覧ください。

宝塚社協ボランティア活動センター

LINE 公式アカウント

友だち 募集中

@395pvhpz

うれしい情報をLINEでお届け!



オンライン レクリエーション

ZOOMを使ってボランティアグループとつながり
レクリエーションを楽しみませんか？

日時 毎月15日 13:30~15:30

その他の日程をご希望の方はご相談ください。

内容 紙芝居や音楽など…

宝塚市社協ボランティア活動センター
ホームページにてお知らせします

ID・パスワード ID : 603 990 4739

パスワード : 865001



※ZOOMの使い方の説明・機材の貸し出し・接続の確認のための
リハーサルが必要な場合はご相談ください。

※団体・施設側で接続のトラブルがあった場合でも時間通り開催
いたします。ご了承ください。

お問い合わせ

宝塚市社協ボランティア活動センター

(受付時間：月曜～土曜 9:00～17:30

日曜、祝日はお休み)

TEL 0797-86-5001

FAX 0797-83-2425

MAIL avolun@nifty.com

オンラインレクリエーション

ボランティア募集

ZOOMを使って施設や団体の方と交流しませんか？

日時 毎月15日 13:30～15:30

※その他、施設・団体の希望があれば

場所 ぶらざこむ1

※その他の場所をご希望の場合はご相談ください

出演ボランティア

オンラインでレクリエーション等をしていただくボランティアです。

機材の準備・セッティングはボランティアセンターで用意します。

配信ボランティア

当日の機材のセッティング、ZOOMの接続・操作をお手伝い

いただくボランティアです。

お問合せ・受付

宝塚市社協ボランティア活動センター

TEL:0797-86-5001

受付時間:月曜～土曜 9:00～17:30

MAIL:avolun@nifty.com

(日曜、祝日はお休み)

イランカラッテ

イランカラッテ
= アイヌ語で「こんにちは」

どうでしょう / からで、

第14回

全国校区・小地域福祉活動サミット in 北海道

開催日

2021.10.22(金)・23(土)

1日目 13:30~16:30

2日目 13:30~15:00

宝塚会場開催決定！！

北海道で開催される校区サミットを宝塚にしながら参加していただけます。

テーマ

講演・対談

コロナ禍における小地域福祉活動

分科会

- ① コロナ禍でのサロン活動の苦難と工夫
- ② 子供食堂から小地域福祉活動への展開と実際
- ③ 小地域福祉活動を“福祉”×“教育”から実現する！
- ④ 地域住民が主体となる小地域活動や生活支援の仕掛け！工夫！

○参加費：¥300-（資料代として）釣銭の無いようご用意ください。

○会場：ぷらざこむ1 2階

○申込み：団体名、氏名、連絡先、参加希望分科会を記載の上、お申込み下さい。

※会場の都合上、定員を設けさせていただいております（先着順）

○お申込み・問合せ（地区担当支援課 大関、太田）

電話：0797-86-5003

メール：nakayamadaitikusenta-@nifty.com

FAX：0797-86-5160

※右記二次元コードからも申し込みいただけます。

○ご自宅で個人的にご参加いただくことも可能です。

その際は校区サミットホームページをご確認ください。

主催：宝塚市社会福祉協議会 ボランティア活動センター 地区担当支援課



コロナ禍により地域住民の生活や活動は、大きく変化を迫られた。マスクの着用は顔のみ見える関係を曇らせソーシャルディスタンスは、人々の手の取りあえる関係性を失わせ、密の回避は集うことを止ませ、人間関係を孤立させた。コロナ禍は、小地域福祉活動がこれまで築いてきた地域住民や地域による支えあいやつながりを無効化するほどの影響があったといえる。確かに、既存の小地域福祉活動の取り組み方は、コロナ禍で無効化されたかもしれない。しかし、小地域福祉活動が培ってきた活動の成果(果実)は、取り組み方に工夫を加えることにより新たな仕掛けや活動が芽吹いてきた。

そこで全体会では、コロナ禍における小地域福祉活動というテーマを設定し、ふたつの点に着目していこう。ひとつは、コロナ禍により“できなかったこと”や“変化したこと”を浮き彫りにしていきたい。もうひとつは、そのことによって生まれた新たな活動や活動の工夫、仕掛けを明らかにしていきたい。これら2点をつまびらかにすることで、小地域福祉活動の新たな局面を参加者とともに導いていきたい。

コロナ禍における小地域福祉活動

講師 山田 英孝氏 津別町社会福祉協議会会長

コーディネーター 榑部 武俊氏 釧路社会的企業創造協議会代表理事

第1分科会 15:00~16:30

コロナ禍でのサロン活動の苦難と工夫

実践報告者 手倉森 洋子氏と事務局員の皆さん
手稲区前田地区福祉のまち推進センター 事務局長

岡田 千春氏 浦山自治振興会まちづくり推進員
浦山地区社会福祉協議会担当

コーディネーター 佐藤 寿一氏 前室塚市社会福祉協議会
常務理事

分科会運営担当者 大井戸 麻衣氏 札幌市社会福祉協議会

地域住民にとってサロンは出会いや仲間づくり、健康づくりの場であり、ボランティアをするものことでは、地域で役割をもって活動することで楽しみや生きがいを感じられる場でもあった。サロン活動は、地域住民が気軽に交流できる場を設け、そこに集うことをきっかけに、サロン以外の場でも日頃からお互いに声をかけ合い、気にかけてあえる関係を築くことを目指してきた。しかしコロナ禍により、サロン活動は休止、縮小を余儀なくされた。

第2分科会 15:00~16:30

子ども食堂から小地域福祉活動への展開と実際

実践報告者 辻川 恵美氏 NPO法人木と風の香り 代表理事

向 優子氏 ひみキトキト子ども食堂ネットワーク代表

澤田 有紀氏 氷見市社会福祉協議会子ども支援課 チーフ

コーディネーター 勝部 麗子氏 豊中市社会福祉協議会
福祉推進室長

分科会運営担当者 櫻井 宏樹氏 苫小牧市社会福祉協議会

子ども食堂は、子どもたちや大人にとっても自宅や学校、職場以外の居場所となりつつある。なぜ、地域に子どもやそれらを取り巻く人々が集う子ども食堂のような居場所が必要とされるのであろうか。分科会では、地域住民の手による子ども食堂の展開に着目し、小地域での福祉活動の展開と実際を考えていく。同時にコロナ禍で実践が窮地に立たされ、活動の縮小を余儀なくされながらも活動を継続するために工夫したことや新たな取り組みなども織り交ぜて考えていきたい。

10月23日(土)

第3分科会 13:30~15:00

小地域福祉活動を“福祉”×“教育”から実現する！

実践報告者 荻原 唯氏 社会福祉法人ゆうゆう

須田 正子氏 よりあい*ええげえし 事務局長/
埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員

コーディネーター 牧野 郁子氏 鶴ヶ島市社会福祉協議会
地域福祉担当主査

分科会運営担当者 櫻井 耕平氏 江別市社会福祉協議会

地域福祉活動は、地域住民主体の福祉活動やネットワークづくり、組織化などを必要とする。特に地域住民の主体性や参加をどのように促すべきであろうか。そのように考えるとき、あらためて“福祉”×“教育”の重要性が、学校・地域・社会で浮かびあってくる。そこで本分科会では、小地域福祉活動を支える鍵となる地域住民やその担い手となるであろう人々の根底にある“福祉”を問いつ、 “地域の中での教育”を小地域福祉活動との実際の中で考えていきたい。

第4分科会 13:30~15:00

地域住民が主体となる小地域福祉活動や生活支援の仕掛け！工夫！

実践報告者 佐藤 智彦氏 池田町社会福祉協議会 事務局長

下徳 真吾氏 都城市社会福祉協議会

コーディネーター 高橋 良太氏 全国社会福祉協議会地域福祉
部長

分科会運営担当者 高橋 修一氏 北海道社会福祉協議会

地域住民が主体的に生活や地域での支え合いをいかに醸成すべきか。小地域福祉活動や生活支援体制整備等は、地域住民の主体性や地域での支え合い等を醸成する取り組みを引き出す。地域住民の主体性や地域の支え合いを促す仕掛けや工夫を小地域福祉活動や生活支援体制整備等から考えていきたい。同時にそれらの取り組みの仕掛けや工夫、特色についても着目していきたい。

お申込用紙

団体名		氏名	
電話番号		E-mail	
各日程の参加希望分科会に○を記載ください。			
1日目	第1分科会		第2分科会
2日目	第3分科会		第4分科会